

市長定例記者会見（令和4年8月10日）録

11時30分～12時21分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況等につきまして、一言申しあげたいと存じます。

ご承知の通り、全国的に、感染力が非常に強い「オミクロン株」の派生型BA・5の置き換わり感染拡大を背景に、第6波のピークをはるかに上回る勢いで、第7波の感染拡大の勢いが続いています。本市におきましても、6月下旬から、これまでにない規模とスピードで感染が拡大している状況でございます。

本市の新規感染者数は、7月19日（火）以降、検査数が少なくなる日曜日を除き、おおむね500人から600人で推移をしています。8月2日（火）には、過去最多の856人にのぼり、週の合計も2週連続で4,000人を超える状況でございます。第7波はなかなか衰える兆しが見えない状況と言えます。

直近1週間の累積新規感染者数を年代別に見てみますと、相変わらず、40歳代以下の方が多くなってきています。若い世代での感染、30歳代、10歳代など感染が目立っているということです。

また、7月下旬からは、60歳以上の高齢者への感染も、徐々に増加しているところでございます。

これらの主な要因といたしましては、やはり感染力の非常に強いBA・5の影響により、職場や施設、あるいは家庭内での感染が拡大している、お一人でも感染者が出ると一気に感染が広がってしまっていてクラスターにつながるケースも増えてきているのが現状と思っています。

いずれにいたしましても、今年は3年ぶりの行動制限のない夏休みを迎えております。市民の皆様におかれましては、旅行やお盆の帰省などを楽しみにされている方も多いと思いますが、現下の感染状況を踏まえ、場面に応じたマスクの着用を始め、手洗いの励行、3密の回避、また、エアコン使用時でも定期的な換気の実施等々につきまして、基本的な感染拡大防止対策について徹底をしていただきたいとお願い申し上げたいと思います。

一方、ワクチンの接種です。接種状況は、8月4日（木）時点で、3回目接種を終えられた方は、約25万6,400人あまりで、接種率は60.2%となっております。30歳代はまだ50%切っているような状況で、まだまだ少ないと言

えるかと思っております。

また、60歳以上の4回目接種を終えられた方は、約39,000人で、接種率は27.3%となっております。

現在、本市といたしましては、鋭意、追加接種を進めておりますので、感染拡大の防止と重症化予防のためにはワクチンは非常に有効な手段でございますので、ぜひ積極的な接種を御検討ください。

また、現在、若者だけでなく10歳代以下の子どもに感染が広がっております。このため、今週末の13(土)・14日(日)に、みんなの病院で実施する集団接種におきまして、新たに5歳から11歳までの小児接種につきまして、集団接種の枠を特別に設けたいと思っております。

予約につきましては、すでに8月8日(月)から開始しておりますけれども、これまで5歳から11歳の小児接種については、接種の勧奨は行っておりませんでした。国の方でもそのような動きも出ていますし、有効性、安全性も確認されていますので、まだまだ予約枠に空きがある状況です。希望される方は、ぜひともワクチン接種を御検討いただきますよう、お願い申し上げます。

次に、高松まつりについて、でございます。明後日、8月12日から、3年ぶりの開催となります。

開催に当たりましては、県のイベント実施要領に基づきまして、感染防止安全計画を策定し、県に認証いただいております。これに基づきまして、徹底した感染防止対策を講じ、参加者のみならず、運営スタッフの安全を確保した上で実施したいと存じます。

特に、総おどりの参加者等に対しましては、できるだけワクチンの3回目接種を受けていただきたいことをお願いしております。また、総おどり当日は、必ず来場前に自宅で検温し、検温の結果、37.5度以上の発熱がある場合や、風邪の症状があるなど体調不良を感じる場合は、参加を控えてほしいと、代表者会議でお願いしているところでございます。

さらに、総おどりの一週間前からは、5人以上の会食などの感染リスクの高い行動を慎むと共に、総おどりの終了後も、長時間マスクを外しての会食なども、控えていただくようお願いしているところでございます。

また、お手元にお配りしておりますが、まつりのうちの裏側に、マスクの着用や密集の回避など基本的な感染防止対策を掲載して、来場者の皆様に、実践を呼びかけることにしております。また、中央公園内に消毒液を複数個所設置します。また、会場内において感染防止対策を種々講じることとしております。さらには、参加者同様、体調不良での来場される方、また、感染リスクの高い行動を控えていただくよう、来場者にもお願いいたしたいと思っております。

私といたしましては、高松まつりを楽しみにしてくださっている市民や観光客の皆様のためにも、現在、感染拡大の第7波が猛威を振るっている状況ではございますが、今年は、何とかして高松まつりを開催し、市民の皆様にも少しでも元気を取り戻していただき、また、高松に、にぎわいと活気を取り戻す契機になればというような思いで開催準備してまいりたいと思っております。

我々として、安全・安心に高松まつりが運営できるよう精一杯努めてまいりますので、市民の皆様にも、それぞれが感染しない、感染させない、最大限の感染防止対策に、御理解・御協力をお願いしたいと存じます。

また、感染症以外でも、熱中症のリスクも非常に大きくなってきております。厳しい暑さが続いているところではございますが、来場者の皆様には、頻繁な水分補給など、熱中症予防につきましても十分心がけていただきまして、安全・安心に高松まつりを楽しんでいただけるよう、お願いいたしたいと存じます。

第8次高松市行財政改革計画（令和2～3年度）実績報告について

それでは、題材に入らせていただきます。本日は1件ございます。

令和2年度から5年度までの4か年を計画期間といたします「第8次高松市行財政改革計画」の令和2年度から3年度までの取組につきまして、実績がまとまりましたので、御報告させていただきます。

第8次高松市行財政改革計画では、各取組項目を「持続可能な財政基盤の確立」など、3つの取組方針に体系化し、全庁を挙げて行財政改革の推進に努めてまいりました。

また、各年度におきまして、財政調整基金の取崩し額が、決算剰余金による積増し額を上回らないことを目標にしておりまして、令和3年度は、昨年度と同

様、財政調整基金を取り崩すことなく、決算剰余金のうち、16億円を積み立てることができたことから、目標が達成できたものでございます。

また、財政指標について、経常収支比率は、前年度比で、5ポイント改善して89.8%に、実質公債費比率も、前年度比で、0.3ポイント改善して7.2%となり、目標を達成しているところでございます。

また、歳入増加額と歳出削減額につきましては、目標額を3億2,900万円ほど上回る、9億2,309万1千円となり、目標達成となっております。

このほか、プロジェクトチームによる取組といたしましては、「地域共生社会の構築」など6チームを設置して課題解決に当たり、一定の成果が得られております。

また、外部評価において、「改善」の判定を受けた「テレビ放送等広報事業」など4事業を追加登載し、取組を推進したところでございます。

以上が、実績報告の概要となりますが、今後におきましても、引き続き、財源措置を有効に活用し、自主財源の強化も含めた財源確保を図り、施策の取捨選択や、更なるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進などを行いながら行財政改革を進めてまいりたいと存じます。

私からは以上です。

【記者質問】

【記者】

全国知事会などが国に対し、新型コロナウイルス感染者の全数把握の見直しを求めているが、市長の考えは

また、現在の外部委託も含めた保健所の態勢は

【市長】

まず全数把握の見直しについてです。国においては、新型コロナウイルス感染症について、2番目に厳格な「2類相当」の扱いですが、これを季節性インフルエンザと同じ「5類相当」に引き下げることが、第7波の収束後に見直す方針を示しております。

一方、知事会、一部の地方自治体や、経済界、専門家など、各界の立場から

も、「2類相当」からの引き下げを求めているところでございまして、私といたしましても、見直す時期に来ていると思っています。

感染者が爆発的に増える中で、保健所や医療機関への負担が重くのしかかっており、そういう負担をどうにか軽減し、重症化リスクの高い人へ重点的に対応すること、また、コロナと共存するウィズコロナを前提とした社会経済活動の正常化を進めていくためにも、見直しは必要と考えています。

ただ、分類を2類から5類へということになると、一般外来など受診体制の拡充や、医療費の公費負担と個人負担の割合の問題など、いくつかの課題が出てきますので、なかなか今の法制度がある以上、すぐに分類を変えるのは難しいのではないかと考えています。私としては、一部自治体で行われていますが、例えば、最初の検査結果が簡易キットで判明した場合に、保健所に検査結果を送るだけで、自主療養できるというような運用上の簡易な扱いを広く認めていき、保健所や医療機関の負担を少しでも軽減していく、そういった形で国が音頭を取って、そのような方式に移行していくのが適当だと思っています。

また、本市保健所の態勢といたしましては、以前にも申しあげましたように、第7波の感染急拡大を受け、保健所では業務がひっ迫し、連日深夜までの勤務が続いている状況でした。

そういう状況の中で、派遣職員の増員を図り、8月1日には人材派遣を16名から24名へと増員し、疫学調査や電話対応業務等に従事していただいています。

また、市の応援職員が24名おりましたが、それにさらに40名を7月29日以降増やしまして、防災合同庁舎の災害対策本部室を活用して勤務し、疫学調査を行っているところでございます。

この体制強化によりまして、疫学調査等の業務もスムーズにっておりますし、それ以外の業務についても、兼務職員・応援職員による体制を確保しており、従来の保健所保健予防課の職員を合わせると、全体では過去最多となる総勢約150名の体制で臨んでいるところでございます。それでどうにかぎりぎりやっつけている状態ですが、今後におきましても、保健所体制の維持・強化、業務量を勘案しながら、適切な体制の構築に努めてまいりたいと存じます。

【記者】

新型コロナウイルスの感染拡大により、救急搬送体制に影響は出ていないのか

【市長】

本市消防局管内での「救急搬送困難事案」は、30分以上かかって4回打診してもダメだった場合は困難事案として成立しているようですが、これについては、高松市管内で、第6波が発生した5月は、月で68件ありました。7月になりますと、第7波に記録的な暑さということで熱中症も加わり、困難事案103件となっております。7月の103件は、コロナが始まって統計を取り出してから過去最多の件数となっております。

現時点におきまして、他都市で見られるような、搬送事案が増えて、救急車が不足する、出場できないといったまでの事態には至っていません。いずれにいたしましても、新規感染者数が非常に増えておりまして、厳しさは増してきてます。感染者数の高止まりがこのまま続きますと、一刻を争うような患者の救急搬送がさらに遅れてしまう恐れもあります。

救急搬送ができないといった事態、救急車が足りないといった事態はできるだけ避けるということで、そのためにも皆さまにお願いしたいのは、単なる発熱だけで、熱中症の症状があれば別ですが、発熱だけですぐに救急車を呼ぶといったことはせず、感染症、コロナが疑われる時には、まずは保健所、コールセンターに相談をしていただきたい、その上で救急車を呼んだ方がいいということになれば、救急車を呼んでいただく形をしていただきたいと思います。発熱外来の混雑もあり、救急搬送体制を守るという意味でもぜひ市民の皆様にご協力をお願いしたいと思います。

【記者】

瀬戸内国際芸術祭の夏会期への期待と、感染症対策と熱中症対策の両立に向けた市民への呼びかけは

【市長】

瀬戸内国際芸術祭2022の夏会期が8月5日から開催されたところがございます。高松市内の会場にも新たな新作等もお目見えし、非常に芸術祭を楽しんでいただけるように多くの来場者を期待したいと思っています。

主なものの新作をご紹介しますと、屋島山上におきまして、「やしまーる」という新たな交流拠点施設がオープンし、そのすぐ隣に、渡辺 篤（わたなべ あつし）さんの「同じ月を見た日」という、大きな月形の映写版に世界中の満月が映し出されるという、非常に幻想的な雰囲気醸し出す作品が新たに展示されています。

また、男木島では、世界的な建築家である坂 茂（ばん しげる）さんと、画家の大岩オスカルさんと共同して建築した「男木島パビリオン」が公開されており、また、女木島では、フランス人作家のニコラ・ダロさんによる「ナビゲーションルーム」という作品が展示されています。また、大島では、開会が8月15日までずれ込んでいますが、前回の芸術祭で公開された、鴻池朋子（こうのいけ ともこ）さんの作品「リングワンデルング」に新たな大島の道が加わるなど、それぞれ非常に魅力的な作品が展開されていますので、ぜひ多くの方にこの作品を楽しんでいただくと共に、瀬戸内海や島、歴史、自然、文化といった魅力を味わっていただきたいと思っています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が非常に厳しい状況になってきています。基本的な感染対策を徹底していただくと共に、我々としては、「新型コロナウイルス感染症対策の指針」に沿って、検温、体調確認などを行ってまいりたい、そして感染者が出た場合には、早急に指針に沿ってとれるように確認をしたながらやっていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、この感染拡大、感染を防ぐということについては、来場者の皆様おひとりおひとりの防止対策の積み重ねが大きな力になりますので、島の中心の芸術祭であり、医療体制が脆弱です。そういうところに行くという自覚を十分持っていただき、対策を講じていただきたいと思っています。

また、猛暑日が続いており、夏の芸術祭ということもあり、海、島に行くということで、熱中症リスクが高まる場面があるかと思っております。常に予防を心がけ、頻繁な水分補給等を行っていただきたいと思っておりますし、我々として、非常に来場者が多くなる土日や祝日は、高松港の屋外の乗船待機列付近にミストファンを設置し、熱中症対策を講じてまいりたいと思っています。こちらについても、おひとりおひとりで十分自覚をして対策を講じていただくのが一番かと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【記者】

国がオミクロン株に対応したワクチンの使用を10月半ばから開始することを決定したが、市長の考えは

【市長】

オミクロン株については非常に感染力が強く、特にBA・5が出だしてからは感染者が急増しています。また新たな変異株も出てきており、それに対応していくことは必要かと思います。そういう中で、国がこのオミクロン株に対応した新型コロナウイルスワクチン接種の方針を打ち出しました。ただ、これは本年10月半ば以降の接種に向けてということなので、現在、地元医師会と情報共有を図りながら、接種券発送の準備、接種会場の手配など、準備を進めています。まだまだ具体的なところについては詳細が分かっていませんので、国の予防接種ワクチン分科会での議論、これの動向に注視しながら、医師会等関係機関と連携し、準備し、円滑な接種に結び付けていきたいと思っています。

【記者】

オミクロン株に対応したワクチン接種に市としてどう臨むのか
また接種を開始した場合、既存のワクチンの取扱いは

【市長】

10月半ばというスケジュールが出されていますが、それまでに準備しなければならぬこと、これまでのワクチン接種と同様な準備をしていくことになると思いますが、具体的な詳細が決まりませんと接種券を送るにしても記載内容を決まってこないの、状況を見ながら、適切に準備を進めていくことになると思います。それから10月半ばからとなると、今、3回目4回目打っている方との重複なり、逆に3回目4回目打とうとしたけどオミクロン株対応が出るのであれば先延ばしにしよう、という動き、いろんな形態が出てくると思います。それにどう対処するのか、国の分科会でも議論されています。どちらにしても、第7波の感染拡大が進む中で、現行のワクチン接種を控えるということになると、感染拡大、あるいは重症化のリスクが拡がることになりかねないと思いますので、私としては、接種控えが起こらないように丁寧な情報提供を行っていただきたいと思っています。本市としても、それに基づき、周知啓発を行っていききたいと思います。

【記者】

高松市が旧統一教会と関係のある団体のイベントに協賛・後援をしたことはあるのか

【市長】

高松市では、旧統一協会の友好団体が実施しているというのがマスコミ等で報道されていますが、ピースロード事業という、自転車で若者たちが県内を回る、ピースロードin香川という事業を行っていますが、それについて、令和2年度から若者たちの表敬訪問を私が受けております。2年3年4年と、3回受けています。それから、この事業につきまして、昨年と今年については高松市の名義で後援を行っています。しかしながら、昨今のマスコミ報道により、このピースロード事業について旧統一協会との関係性が明確になっています。また、8月4日付でこのピースロード事業、実行委員会で主催され行われていますが、その実行委員会から新型コロナウイルス感染症の再拡大など諸般の事情により、今年の活動を自粛するため、各団体の後援については取り下げたいとの申し出がありました。このことから、ピースロード香川の後援については取り下げたいとしております。

【記者】

旧統一教会を巡る問題を踏まえ今後、市が協賛・後援するイベントについてどう対応するのか

【市長】

いろんな後援依頼はありますが、それぞれのイベントの目的、内容、趣旨等を勘案し、公益性に適うものなのか、高松市が後援をすることによってどのような効果があるのか、見極めた上で慎重かつ適切に対応してまいりたいと思っています。

【記者】

市長自身が旧統一教会から支援を受けたり、関連するイベントに出席したことはあるのか

【市長】

私自体はピースロードin香川の表敬を受けた以外に、関連団体等と関わったことは一切ございません。もちろん支援についても一切ございません。

【記者】

政治家と旧統一教会との関係が大きな問題になっているが、市長の考えは

【市長】

宗教団体というよりは、その団体が性格なり、過去の刑事事件等々の問題等もあるので、それぞれ個別に対応は違ってくると思います。いろんな団体、各種宗教団体に関わらずあるので、それぞれの団体の趣旨内容活動状況を見極めた上でそれが公益に適うものなのか、政治家が付き合うのであれば、公益を増進させるために付き合うことになると思っていますので、その辺を個々の政治家が見極めて判断しお付き合いしていくことが大事だと思います。

【記者】

旧統一教会と関連があるピースロードに対して、高松市が後援していることは適切と考えているのか

【市長】

関連団体自体が旧統一協会との関係が必ずしも明確ではなかったということがあり、あくまで後援はイベントの趣旨目的内容に照らして公益性が認められるということで判断しましたが、今後については協賛団体も含め慎重に対応していく必要があると思っています。

【記者】

市議会議員が行政視察に行つて新型コロナウイルスに集団感染したことについての受け止めは

【市長】

市議会議員の皆さんが視察等でクラスターを起こし、複数感染されました。感染されたことに対しましては罹患ということで、お見舞いを申し、早期回復を願いたいと思います。会食をしていたということですが、感染経路自体が明確になっていません。会食等については、色々注意をし、高松市内、県内であると認証店で人数が多い場合は会食してくださいというお願いをしていますので、それが守られているかどうか確認していませんが、その辺が若干甘かったと思っています。感染したこと自体は責められることではないですが、オミクロン株の場合、だれがどこでどういう形で感染するか分からないほど感染力が強いので、皆様方に感染対策を徹底していただきたい、特に市議会議員さんは市民に呼びかける立場でもあるわけなので、その辺について留意していただきたいとお願ひしたいと思います。

【記者】

コロナ禍の中での、議員派遣に対する市長の考えは

【市長】

かなり感染拡大していますが、基本的には今行動制限がない状況なので、議員派遣で視察自体をやってはいけないということにはならないと思いますが、こういうクラスターが起こりやすいことを考えますと、同じグループで大人数で行くなどは考慮し、少人数に分ける、行動を分散化し、同じグループが感染する状況にならないように注意するなど、十分ご留意いただきたいと思います。

【記者】

行政視察の参加議員の人数は適正だったのか

【市長】

大人数での会食はリスクがありますとこれまで言ってきたところなので、今後留意していただきたいと思います。

【記者】

香川県知事選挙は新人同士の対決になると思われるが、こういった論戦に期待するのか

【市長】

香川県の課題はたくさんございます。当面はコロナ対策、根本的には人口減少、超高齢化社会に伴う対策があります。そういう県政の大きな課題について、十分な政策論争が行われながら選挙が行われることを期待したいです。

【記者】

選挙の投票率の低さが言われているが、その要因に対する考えは

【市長】

投票率の低迷はすべての選挙に言われることですが、香川県知事選挙は過去においても30%切るような非常に低い投票率であり残念です。投票率を引き上げる要素は色々ありますが、選挙が接戦になり、政策論争が行われ、市民が関心を持ち投票に行くということが根本的には必要と思っていますが、誰がどういう風に作り出すということでもないので、ぜひともそういう形の政策論争が行われるように期待したいし、市民の皆様には香川県のトップを決める選挙はこの機会だけなので、ぜひとも貴重な1票を有効に活用して投票していただきたいと思えます。

【記者】

投票率向上のための要因は

【市長】

政策論争で明確になり、接戦となるような形になることが投票率が上がることになると思います。誰がどうこうして作り出せることではないので、有権者の皆様の自覚を期待したいと思います。

【記者】

ピースロードについて、どのような趣旨から表敬訪問の受け入れやイベントの後援を行ったのか

【市長】

今年度の例で言うと、ピースロードin香川の趣旨というのが、新型コロナウイルスの早期収束、世界平和、ウクライナ平和への祈願、四国新幹線の早期実現といったようなことを掲げて、東かがわ市から観音寺市まで全域を自転車で回るとというのがイベントの趣旨でした。その内容を審査し、公益に適うものであるということで後援し、高松市を走る時に高松市役所に表敬に参りたいという話だったのでお受けしました。

【記者】

いつピースロードの表敬訪問を受けたのか

【市長】

7月だったかな。7月1日ですね。

【記者】

イベントなどの後援申請を受ける場合、申請団体の調査は行っているのか

【市長】

今回は実行委員会形式で行われており、県選出の国会議員、県会議員、市議会議員が委員に入っており、後援もすべての市町でしており、そういう客観状況はすべて調べた上で判断しています。

【記者】

ピースロードと旧統一協会の関係について、踏み込んで調べていないのか

【市長】

団体というか、イベント自体は実行委員会主催なので、そこまでは調べていません。

【記者】

新型コロナウイルスの感染が拡大している時期に行政視察を行ったことは適切だったと思うか

【市長】

いろんな調査のための議員派遣、視察は、いろんな時期にそれぞれ行われているかと思います。物によってはその時期しかダメだという場合もあり、何時行ってもいいということであれば適切な時期を選んでいくべきだと思いますが、それぞれの議員、それぞれの会派のご判断かと思います。

今回の議員視察は議会で決めているので、執行部側は直接関与しているところではありません。

【記者】

市議会議員の集団感染について、感染症対策は行っていたとのことだが、守られていたのか

【市長】

こちらは調査する立場ではございませんので、十分に把握しておりません。

【記者】

香川県内の病床使用率が50%を超え、BA・5対策強化宣言の発令という話もあるが、高松まつりや瀬戸内国際芸術祭の開催について変更はないのか

【市長】

県の対応がどういう形になるかまだはっきりしないところですが、現在のところ感染防止対策計画を県に提出した上で了承を得て準備を進めているので、これだけ厳しくなっているので、さらに感染対策を徹底するということはやっていきたいと思いますが、今の状況であれば準備を進めて開催したいと思います。

【記者】

感染防止対策計画は高松まつりでの感染対策のガイドラインになっているのか

【市長】

県に提出をするということで、それに基づいてやっているところです。

今回の高松まつりは、総おどりでは、おどり連については従来の3分の1程度の参加、人数も1,000人くらい、従来中央通りで4列で踊っていたところ3列に、連と連の間を10mから40mに、人と人との間隔も1mだったのを3m以上という形にしています。露店も3分の2程度に少なくし、イベントについても3日間の開催で分散開催という形で考慮し、いろんな対応策を取りながら安全安心に実施できたらと思っています。

【記者】

高松まつりの沿道での観覧者への感染対策は

【市長】

ある程度隙間を取って、基本的にはマスク着用をお願いします。

【記者】

香川県内の病床使用率が50%を超えているが、高松まつりの開催に対する意気込みは

【市長】

第7波の感染拡大の中ですが、基本的に国全体として行動制限がないということで、まつりとしてはコロナ関係で中止となっており3年ぶりの開催です。楽しみにされている市民の方、観光客の方もおられるということで開催をしたいということですし、協賛企業を始め開催に向けたお力添えをいただいている関係者も多くいらっしゃるので、そのような方々の期待に応えられるように、安全安心におまつりができるように我々として精一杯の努力をしてまいりたいと思っています。